

ID ^{注1)}	071101	公開レベル ^{注1)}	B	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	平成19年度白神山地における白神山地における森林生態系の変動及び生物多様性等 森林機能の把握に関する調査研究業務						発行年月/報告年月	
							2008年	3月
調査機関	環境省 東北地区自然保護事務所			委託機関			株式会社パスコ	
調査開始年	2007年		調査期間	2007年	7月	～	2008年	3月
調査頻度 ^{注2)}	—	—	調査時期 ^{注2)}	—	—	—	資料形式 ^{注2)}	報告書
モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(2)	

調査箇所・範囲 ^{注3)}	目的・調査手法
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり	<p>■目的 昨年度業務の成果を踏まえた上で、調査対象地域を拡大し、昨年度と同様に過去に撮影された航空写真を用いて、過去から現在に至るまでの森林の立体構造の変化や成長量等を定量的に把握し、森林生態系の変動要因の一つであるギャップの解析、造林地の把握を通して森林生態系のダイナミクスを明らかにすることを目的とした。</p> <p>■調査項目及び調査手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空写真データの作成・解析 航空写真データとして、航空写真測量によりDSMデータとオルソ航空写真データを作成し、教師付分類により、林種分類画像データ（人工林・天然林・草本・裸地・ササ・河川）を作成した。 人工衛星画像データの作成・解析 人工衛星が層を幾何補正した上で、教師付分類により林種分類画像データ（人工林・天然林・草本・裸地・ササ・河川）を作成した。 森林構造データの作成・解析 森林構造データを作成するための基本データとして、はじめに地面高を示すDTMデータを作成した。その後、DTMデータとDSMデータを用いて森林構造データ(DCHMデータ、森林ギャップデータ、PAIデータ)を作成した。 野生鳥獣生息環境としての森林生態系評価手法の検討 既存知見の中から、野生鳥獣の繁殖餌場等の具体的な生態情報を収集し、GISデータとして整備した。また、調査対象地域における森林構造データと野生鳥獣GISデータをもとに野生鳥獣の繁殖及び餌場と森林構造データとの相関を解析し、その評価手法を検討した。

図 1.2.1 調査対象範囲

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

■DSMデータ
航空写真DSMは、谷部や尾根部においても、場所による差異が少なく、比較的レーザDSMに近い精度で作成することが可能であることが分かった。レーザDSMとの差分画像を検証した結果、その標準偏差は4.2mであった。

■北海道地図DTM
北海道地図（基図は国土地理院の1/25,000地形図）は、図郭単位で標高値全体の傾向に差異が存在する場合があることが分かった。従って、図郭が複数にまたがる場合、図郭ごとに補正を実施する必要がある。補正後の北海道地図DTMと、レーザDTMとの差分画像を検証した結果、その標準偏差は、6.0mであった。

■航空写真DCHM
航空写真DSMと北海道地図DTMから航空写真DCHMを作成した。レーザDCHMとの差分画像を検証した結果、その標準偏差は、7.0mであった。航空写真DSMの誤差と北海道地図DTMの誤差が二重に含まれることになるため、その分誤差も大きくなったものと考えられる。
一般的な樹高の高さ（0～30m）を考えると、7.0mという誤差は大きい可能性がある。従って、航空写真DCHMを利用する場合は、モニタリング対象に求められる精度を考慮した上で、航空写真DCHMを利用することが適しているかどうか検討する必要がある。

■野生鳥獣生息環境の評価結果
イヌワシの生息環境（飛翔範囲）を、「方法1:イヌワシの飛翔実績を指標として求める方法」と、「方法2:イヌワシの一般的な飛翔傾向を指標として求める方法」の2つの方法で求めた。方法1、方法2の結果と、イヌワシの飛翔実績範囲とを比較すると、方法1は、判別率の中率が55%ということもあり、飛翔実績との一致箇所が少ないことが分かった。一方、方法2では一致箇所が多く、より正確に飛翔推定範囲を抽出できることが分かった。

問い合わせ 環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所
〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1
TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635

《原本（データ）の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

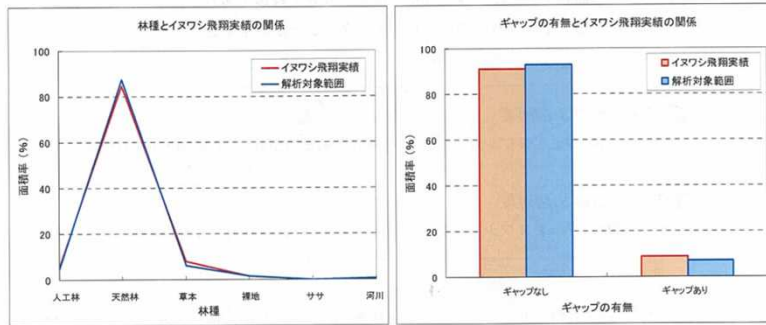


図 5.1.4 イヌワシ飛翔実績と各要素のヒストグラム